OLYMPUS

CAMEDIA

デジタルカメラ
C-2 Zoom

取扱説明書

- このたびは、オリンパス製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
- ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、試し撮りをしてカメラが正常に機能することをお確かめください。

はじめに

このたびはオリンパス デジタルカメラをお買上げいただき、ありがとうございます。この説明書をよくお読みのうえ、安全に正しくお使いください。
また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

- 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報についてはカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- 本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらカスタマーサポートセンターまでご連絡ください。
- 本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止されています。また、無断転載は固くお断りします。
- 本製品の不適当な使用により、万一損害が生じたり、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品の故障、当社指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI ）の基準に基づくクラスB 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。
本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCI基準の限界値を超えることが考えられます。必ず、指定のケーブルをご使用ください。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
MacintoshおよびAppleは米国アップルコンピュータ社の登録商標です。
その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格について

カメラファイルシステム規格とは、電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF 」です。

INDEX

もくじ 4

安全にお使いいただくために 7

準備をしましょう 13

撮影しましょう 35

いろいろな機能を使って撮影しましょう 51

再生しましょう 67

カメラの設定をしましょう 87

プリントの設定をしましょう 97

困ったときは 103

仕様 111

索引 113

もくじ

はじめに. 2
INDEX 3

もくじ 4

安全にお使いいただくために 7

準備をしましょう 13

各部の名称. 13
液晶モニタの表示. 14
● メモリゲージについて. 15
● 電池マークについて. 15
ストラップを付ける. 16
電池を入れる. 17
●別売の電池やACアダプタを上手に選ぶ 18
カード（スマートメディア）を入れる. 20
電源のON/OFF 23
● カードセットアップ画面が表示されたときは. 25
日付・時刻を設定する. 26
メニューとタブのしくみ. 28
●メニューの操作方法 29
●ショートカットメニュー一覧 31
●モードメニュー一覧 33

撮影しましょう 35

カメラの正しい構え方. 35
静止画を撮る. 36
●ファインダを見て撮る 36
●液晶モニタを見て撮る 37
●ファインダと液晶モニタを使い分ける 38
ピントが合わないときは(フォーカスロック). 39
●オートフォーカスが苦手な被写体 40
ムービーを撮る. 41

拡大して撮る（光学ズーム/デジタルズーム）. 43
●光学ズームを使う 43
●デジタルズームを使う 44
近くのものを撮る（マクロ）. 46
フラッシュを使う. 48

いろいろな機能を使って撮影しましょう 51

セルフタイマーを使う. 51
連続で撮る（連写）. 52
画像の明るさを変える（露出補正）. 53
中央部の明るさを優先して撮る（測光）. 55
画像の色合いを調整する（ホワイトバランス）. 57
画像のクォリティとサイズを変える（画質）. 59
パノラマ撮影. 62
合成ツーショット撮影. 64
自分を入れて撮影をする（セルフポートレート撮影）. 66

再生しましょう 67

静止画の再生. 67
●簡単再生（ダブルクリック再生）. 68
●クローズアップ再生 68
●インデックス再生 69
●自動再生 71
●テレビ再生 72
ムービー再生. 73
画像の消去. 75
●1コマ消去. 75
●全コマ消去 76
大切な画像を消さないようにする（プロテクト）. 78
静止画の編集. 80
●モノクロ作成 80
●セピア作成 81
●リサイズ 82
●回転 83

ムービーの編集........................... 85
●インデックス作成........................ 85

カメラの設定をしましょう 87

警告音を消す（ビープ音）........................ 87
フォーマットする（カードセットアップ）........................ 88
撮影後すぐに画像を確認する（レックビュー）........................ 90
電源を切っても設定を残す（設定クリア）........................ 92
画像の詳細情報を表示する（情報表示）........................ 94
液晶モニタの明るさを変更する（モニタ調整）........................ 95
ピクセルマッピング........................ 96

プリントの設定をしましょう 97

プリントについて........................ 97
カードにプリント予約する........................ 99

困ったときは 103

こんな表示がでたら........................ 103
故障かな？と思ったら........................ 105
●うまく操作ができない........................ 105
●画像の仕上がりがよくない........................ 107
アフターサービス........................ 110

仕様 111

索引 113

●本書の表記について

注意	故障やトラブルになるような、重要な注意事項が書かれています。絶対に避けていただきたい操作も書かれています。
メモ	活用するために、知っておくと便利なことや役に立つ情報などが書かれています。
☞	本書での参照先のページを表します。

ご使用の前に、この内容ををよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

安全にお使いいただくために

製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

製品の取り扱いについてのご注意

⚠ 警告

- **可燃性ガス、爆発性ガス等がある場所では使用しない**。これらのガスが、大気中に存在するおそれのある場所での本製品の使用はおやめください。引火・爆発の原因となります。
- **フラッシュを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で使用しない。**目に近づけて撮影すると、視力障害をきたすおそれがあります。特に乳幼児に対して、至近距離で撮影しないでください。
- **幼児、子供の手の届く場所に置かない。**以下のような事故発生のおそれがあります。
  - 誤ってストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
  - 電池や小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
  - 目の前でフラッシュが発光し、視力障害を起こす。
  - カメラの動作部でけがをする。
- **カメラで日光や強い光を見ない。**視力障害をきたすおそれがあります。
- **通電中の充電器、充電中の電池に長時間触れない。**充電中の充電器や電池は温度が高くなります。また、別売のACアダプタをご使用時も長時間お使いになっていると、本体の温度が高くなります。長時間、皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。
- **ほこりや湿気、油煙、湯気の多い場所で長時間使ったり、保管しない。**火災や感電の原因となることがあります。

● **フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しない。**連続発光後も発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。
● **分解や改造をしない。**感電やけがをする原因となります。
● **内部に水や異物を入れない。**万一、水に落としたり、内部に水が入ったりしたときは、火災や感電の原因になりますので、すぐに電源を切り電池を抜き、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。

⚠ 注意

● **異臭、異常音、煙が出たりするなどの異常が生じたときは使用をやめる。**このようなときは、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、販売店または当社サービスステーションにご連絡ください。火災や、やけどの原因となります。（電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。）
● **濡れた手で操作しない。**感電の危険があります。またACアダプタの抜き差しは、濡れた手では絶対にしないでください。
● **持ち運びのときは、ストラップが引っかからないよう注意する。**カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。けがや事故の原因となることがあります。
● **温度の高い所へ放置しない。**部品が劣化したり、火災の原因となります。
● **専用のACアダプタ以外は使用しない。**カメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。また別売のACアダプタは日本国内用です。海外ではご使用になれません。専用以外のACアダプタの使用により生じた傷害は保証しかねますので、あらかじめご了承ください。
● **ACアダプタのコードを傷つけない**。ACアダプタのコードを引っ張ったり、継ぎ足したりは絶対にしないでください。必ず電源プラグを持って、抜き差しを行ってください。
以下の場合はただちに使用を中止し、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。
- 電源プラグやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出た場合。
- ACアダプタのコードに傷、断線、または電源プラグに接触不良があった場合。

使用条件についてのご注意

- 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。本製品を使用または保管する場合、以下のような場所で長時間使用したり放置すると動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、避けてください。
  - 高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
  - 直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど
  - 砂、ほこり、ちりの多い場所
  - 火気のある場所
  - 水に濡れやすい場所
  - 激しい振動のある場所
- カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
- レンズを直射日光に向けて撮影または放置しないでください。CCD※の褪色・焼きつきを起こすことがあります。
- 長期間使用しないと、カビがはえたり故障の原因になることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。
- 三脚に取り付ける際、カメラを回さず、三脚のネジを回してください。
- 本体の電気接点部には手を触れないでください。
- レンズに無理な力を加えないでください。

※ CCD (icharge coupled device) とは、レンズを通して入ってきた光を受けて、電気信号に変換する素子のこと。

電池についてのご注意

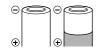
液漏れ、発熱、発火、破裂、誤飲などによるやけどやけがを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

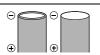
⚠ 危険

- 充電式電池は、専用のオリンパス製電池と充電器をご使用ください。電池は指定の充電器以外で充電しないでください。ご使用になる際は、電池、充電器等の説明書をよく読んで、正しくお使いください。
- 火中への投下や、加熱をしないでください。
- ＋－を金属等で接続したり、金属製のネックレスやヘアピン等と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
- 強い日なた、炎天下の車内やストーブの前面など、高温の場所で使用•放置しないでください。
- 直接ハンダ付けしたり、変形や改造・分解をしないでください。端子部安全弁の破壊や、アルカリ液の飛散が生じ危険です。

● 電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み等に、直接接続しないでください。
● 電池の液が目に入ると、失明の原因になります。こすらずに、すぐ水道水などのきれいな水で充分に洗い流し、直ちに医師の治療を受けてください。
● 電池を誤って飲まないよう、乳幼児の手の届かぬ場所で保管および使用してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

⚠ 警告

● 電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさないでください。
● 以下の内容を守らない場合、電池の液漏れ、発熱、発火、破裂により、火災やけがのおそれがあります。
  • このカメラで指定されていない電池を使わないでください。
  • 古い電池と新しい電池、充電した電池と放電した電池、また、容量、種類、銘柄の異なる電池を一緒に混ぜて使用しないでください。
  • 充電できないアルカリ電池やリチウム電池、リチウム電池パック(CR-V3)を充電しないでください。
  • ＋－を逆にして装着・使用しないでください。また、機器にうまく入らない場合は無理に接続しないでください。
  • 外装シール（絶縁被覆）を一部またはすべて剥がしている電池や、破れている電池をご使用になりますと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になりますので、絶対にご使用にならないでください。
  • 市販されている電池の中にも、外装シール（絶縁被覆）の一部またはすべてが剥がれている電池があります。このような電池は、絶対にご使用にならないでください。
● このような形状の電池はご使用になれません。

シール（絶縁被覆）をすべて剥がしているもの(裸電池)、または一部が剥がされているもの。

負極（マイナス面）の一部に膨らみがあるが、負極がシール（絶縁被覆）で覆われていないもの。

負極（マイナス面）が平らな電池。(負極の一部がシールに覆われていても、覆われていなくても使用できません。)

● ニッケル水素電池の充電が、所定充電時間を越えても完了しない場合は、充電を中止してください。
● 液漏れ、変色、変形その他異常が発生した場合は使用を中止し、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。火災や感電の原因となります。

- 電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に傷害を起こす原因になります。
- カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしないでください。
- 電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないでください。

⚠ 注意

- 電池の＋－極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。
- 当社製ニッケル水素電池はオリンパスデジタルカメラ「CAMEDIA（キャメディア）」専用です。他の機器に使用しないでください。
- 充電式電池をお買い上げ後初めてご使用になる場合、また長時間使用しなかった場合は、必ず充電してください。
- 充電式電池は必ず使用する電池を同時に（機種により4本または2本）充電してご使用ください。
- 電池を使ってカメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。やけどの原因となります。
- アルカリ電池は電池の銘柄、製造日からの保存期間、使用温度により内部抵抗・容量に差があるため、ニッケル水素電池やリチウム電池パック（CR-V3）などに比べて寿命が極端に短い場合があります。また、低温時は使えません。
- マンガン電池は使用できません。電池寿命が短いばかりでなく、電池の発熱等により本体に損害をもたらすおそれがあります。
- 電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。
- ニッケル水素電池ご使用推奨温度範囲
  放電（機器使用時）：0 ～40 ℃
  充電：0 ～40 ℃
  保存：－20 ～30 ℃
  上記温度範囲外での使用は性能・寿命の低下の原因となります。保管の際はカメラから電池を取り出してください。
- 長時間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておいてください。電池の液漏れ・発熱により、火災やけがの原因となることがあります。
- 撮影条件、使用環境および電池により撮影枚数が減少する場合があります。
- 長期間の旅行などには、予備の新しい電池を用意することをおすすめします。特に海外では、地域によって入手困難なことがあります。
- 電池を捨てる際は、地域の規定に従って処分してください。

液晶モニタとバックライト[※1]について

本製品は背面の表示には、液晶モニタを使用しています。
これらは液晶モニタに関するご注意です。

- 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。万一破損した場合は中の液晶を口に入れないでください。液晶が手足や衣類に付着した場合は、ただちに石鹸で洗い落してください。
- 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見える事がありますが、故障ではありません。
- 被写体が斜めの時、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。
- 一般に低温になるにしたがってバックライトは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下したバックライトは、常温に戻ると回復します。
- 液晶モニタに使用されている液晶画面のバックライトおよびコントロールパネル[※2]には寿命があります。画面が暗くなったり、ちらつき始めたら、当社サービスステーションにお問い合わせください。（保証期間外の修理は有料となります。）
- **本製品の液晶モニタは、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶モニタの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

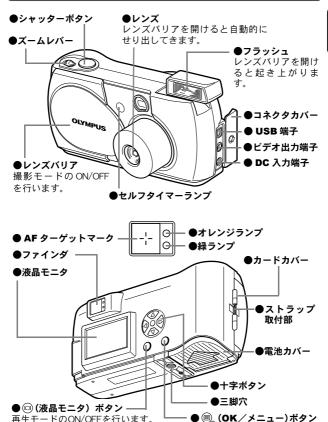
※1　バックライトとは、液晶モニタを照らすための光源のこと。
※2　一部搭載していない機種もあります。

準備をしましょう

各部の名称

液晶モニタの表示

撮影モードのとき

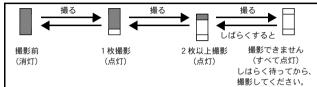
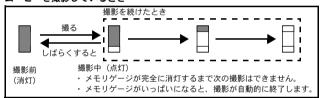
再生モードのとき

	表示例		参照頁
①	電池残量	、	P.15
②	フラッシュ	、、、、	P.48
③	スポット測光		P.55
④	メモリゲージ		P.15
⑤	露出補正	-2.0、-1.5、-1.0、-0.5、+0.5、+1.0、+1.5、+2.0	P.53
⑥	セルフタイマー／ドライブ	、、	P.41, 51, 52
⑦	ホワイトバランス	WB AUTO、、、、	P.57
⑧	画質	SHQ、HQ、SQ1、SQ2	P.59
⑨	撮影可能枚数／秒数	16／16”	P.41
⑩	画像サイズ	1600×1200、1024×768、640×480	P.59
⑪	日時	’02.01.12　12:30	P.26
⑫	ファイル番号、コマ番号／秒数	100-0016、16／16”	—
⑬	プリント予約・プリント枚数	×2	P.98
⑭	プロテクト		P.78

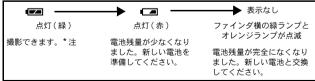
メモ

再生時に画像の詳細を見るときは、情報表示をしてください。「画像の詳細情報を表示する（P.95）」

● メモリゲージについて

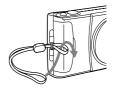
撮影すると、メモリゲージが点灯します。点灯中はカードへの記録を行っています。メモリゲージの表示は、撮影状態によって次のように変化します。

静止画を撮影しているとき

ムービーを撮影しているとき

● 電池マークについて

カメラの電源を入れたときや使用中に電池残量が少なくなると、液晶モニタの電池残量表示が以下のように表示されます。

*注： デジタルカメラは動作状態により、消費電力が大きく変わります。カメラの動作状態によっては、電池残量の警告表示なしで電源がオフする場合があります。その際は新しい電池に交換してください。

ストラップを付ける

1 ストラップ取付部にストラップの短い方を通します。

2 ストラップの長い方を輪にくぐらせます。

3 少し強めに引っ張り、ゆるんで抜けないことを確認してください。

- カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。けがや事故の原因となることがあります。
- 上の図にしたがってストラップを正しく取り付けてください。万一、誤った取り付けによりストラップが外れてカメラを落とすなどした場合、損害など一切の責任は当社では負いかねますのでご了承ください。

電池を入れる

電池はリチウム電池パックCR-V3（当社製LB-01）1個、または単3ニッケル水素電池、ニッカド電池、アルカリ電池、リチウム電池2本を使用します。

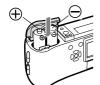
1 **以下のことを確認してください。**

2 **電池カバーを Ⓐ の方向(電池カバーに示されている ⇩ の方向)にスライドさせて、Ⓑ の方向に引き上げます。**

3 **図のように電池の向きを正しく合わせて入れます。**

単3型電池の場合

リチウム電池パックの場合

4 **電池カバーを Ⓒ の方向に下げて、⇩ マークをしっかり押しながら Ⓓ の方向にスライドさせます。**

閉まりにくいときは無理に押さず、電池カバーの「⇩ マーク」の部分を両手でしっかり押しながら閉めてください。

メモ　電池を外して約1時間放置すると、日時の設定は初期状態に戻ります。

●別売の電池やACアダプタを上手に選ぶ

このカメラでは付属の電池の他、次の電池・ACアダプタを使用することができます。用途にあわせてお選びください。

●リチウム電池パックCR-V3（充電できません）

リチウム電池パックCR-V3（当社製LB-01）は寿命が長く、旅行などにも便利です。
リチウム電池パックのラベルは、はがさないでください。端子部に絶縁シールが貼られている場合は、そのテープのみはがしてお使いください。

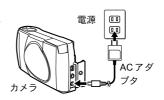
●ニッケル水素電池（充電式電池）

当社製ニッケル水素電池（充電器セットBU-50SNH）は、撮影後に充電すると繰り返し使用できるので経済的です。また、低温にも強く、寒い地域でも有効です。

●単3アルカリ電池

旅行先などで電池が消耗しても、どこでも入手しやすい単3アルカリ電池がご使用いただけます。ただし、銘柄や使用条件によって撮影可能枚数が大きく変わります。ご使用の際は液晶モニタをこまめにお切りください。

●ACアダプタ

専用ACアダプタE-7AC（3V用）で、家庭用電源（AC100V）から電源を取ることができます。

- マンガン電池は使用できません。
- 電池を使用してカメラをパソコンに長時間接続しているとき、途中で電池残量がなくなると画像データにトラブルが生じることがあります。ACアダプタのご使用をおすすめします。ただし、パソコンとの接続中には、ACアダプタを抜き差ししないでください。
- カメラの電源が入っているときに電池や AC アダプタを抜き差ししないでください。カメラに設定されている設定値や機能にトラブルが生じる場合があります。
- 電池の寿命は、お使いの電池の種類、メーカー、カメラの使用条件などにより大きく異なります。
- 以下の条件では撮影をしなくても電力を消費するため、撮影可能枚数が減少することがあります。
    - 液晶モニタが点灯している。
    - 再生モードで長時間、液晶モニタを点灯する。
    - ズーム動作を繰り返す。
    - 撮影モードでシャッターボタンを半押しをして、フォーカス動作を繰り返す
    - パソコンとの接続時。
- 本書の「安全にお使いいただくために（☞ P.7）」を必ずお読みください。

カード（スマートメディア）を入れる

本書では、スマートメディアをカードと呼びます。このカメラで撮影した画像は、カードに記録されます。

●カードについて

カードとは撮影した画像を記録するためのフィルムにあたるものです。カードに記録された画像は自由に削除したり、パソコンで加工することができます。

① 接触面（コンタクトエリア）
カメラの信号読み取り接点が接触する部分です。
② ライトプロテクトエリア
書き込み禁止状態にしたいときは、ここに付属のライトプロテクトシールを貼ります。
③ インデックスエリア
カードに保存されている内容がわかるようにここに付属のラベルを貼ります

以下のカードが使用できます。
・付属の16MBの標準カード
・別売のオリンパス製カード（4・8・16・32・64・128MB）
・市販の3V(3.3V)カード（4・8・16・32・64・128MB）

- 2MBのカードは使用できません。
- 市販の5Vカードは使用できません。
- オリンパス製以外の市販のカード（3V（3.3V）など）や、パソコンなどの他の機器でフォーマット（初期化）したカードは、このカメラで認識できないことがあります。お使いになる前に、必ずこのカメラでフォーマットしてください。「フォーマットする（ ☞ P.89)」

カードのお取り扱い上の注意
・動作温度：0℃～55℃、保管温度：－20℃～65℃、
動作・保管湿度：95%以下
・保管時・携帯時は、静電気防止ケースに入れてください。
・カードを曲げたり、衝撃を与えないでください。
・カードのコンタクトエリアには直接手を触れないでください。
・ライトプロテクトシールは再使用しないでください。
・カードの取扱説明書（付属）もお読みください。

1 以下のことを確認してください。

2 カードカバーを開けます。

3 カードを図の方向につきあたるまで差し込みます。

カードカバーの内側にカード挿入方向のマークがあります。

4 カードカバーをカチッという音がするまで閉じます。

●カードを抜くとき

カードを指先でつまみながら矢印の方向に引き抜きます。

カメラの電源が入っているときは絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したりしないでください。カード内のデータが破壊されるおそれがあります。破壊されたデータの復旧はできません。

電源のON/OFF

●撮影するとき

電源ON … レンズバリアを開けます。

撮影モードで電源が入ります。フラッシュが起き上がりレンズがせり出します。

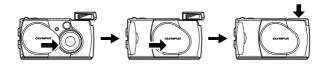
レンズがせり出してこないときは、レンズバリアが完全には開ききっていません。カチッと音がするところまで開いてください。

日付・時刻がリセットされているときは液晶モニタに「日時を設定してください」と表示されます。「日付・時刻を設定する (☞ P.26)」

電源OFF … レンズバリアをレンズのところまで少し閉じます。

レンズに触れる直前にカチッとした感触があり、レンズが引き込まれます。レンズが完全に引き込まれたら、レンズバリアを完全に閉じます。

電源が切れます。(液晶モニタが消灯します)

フラッシュを手で押し込みます。

電源を入れたまま約1分間何も操作しないと、電池の消耗を防ぐためにスリープモード（待機状態）になります。液晶モニタが点灯しているときは自動的に消灯します。シャッターボタンやズームレバーなどを操作するとスリープモードは解除されます。しばらく撮影しないときはできるだけ電源を切っておいてください。

注意

レンズバリアを閉じる際は、レンズに強く押し当てないでください。キズや故障の原因になります。

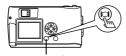
●再生するとき

電源ON …　レンズバリアを閉じた状態で ボタンを押します。

再生モードで電源が入ります。液晶モニタが点灯し、撮影した最新の画像が表示されます。

液晶モニタボタン

電源OFF …　 ボタンを押します。

液晶モニタが消灯し、電源が切れます。

液晶モニタボタン

電源を入れた後に液晶モニタが一瞬光り、しばらくしてから画像が表示されることがありますが、故障ではありません。

注意

カメラの電源が入っているときは、絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したり、ACアダプタを抜き差ししないでください。カード内のデータが破壊されるおそれがあります。破壊されたデータは復旧できません。カードを交換するときも、必ず一度電源を切ってからカードカバーを開けてください。

● カードセットアップ画面が表示されたときは

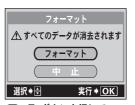
電源をONにすると、カードチェックが自動的に行われます。フォーマット（初期化）が必要なカードが入っていると、以下の画面が表示されます。

フォーマットするとカード内の全てのデータが消去されますので、ご注意ください。

電源をオフにする

ボタンを押して［電源オフ］を選択し、ボタンを押します。

カメラの電源が切れます。

カードをフォーマットする

ボタンを押して［フォーマット］を選択し、ボタンを押すとフォーマットを確認する画面が表示されます。もう一度［フォーマット］を選択してボタンを押します。

フォーマットが始まります。フォーマットが終わると、撮影できる状態になります。

準備をしましょう

日付・時刻を設定する

1 **レンズバリアを開けます。**

2 **ボタンを押します。**

撮影モードのトップメニューが表示されます。

3 **十字ボタンのを押して［モードメニュー］を選択します。**

4 **ボタンを押して［設定］タブを選択し、ボタンを押します。**

5 **ボタンを押して［日時設定］を選択し、ボタンを押します。**

6 △▽ボタンを押して日付の順序を、“年-月-日”、“月-日-年”、“日-月-年”から選択し、▷ボタンを押します。

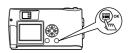
年の入力に移動します。
この手順は“年-月-日”に設定した場合の説明です。

7 △▽ボタンを押して最初の項目を入力し、▷ボタンで次の項にすすみます。

◁ボタンを押すと、1つ前の項目に戻ります。

8 同様の操作を繰り返し、時刻まで入力します。

9 OKボタンを押します。

0秒の時報に合わせてOKボタン押すと、正確に時間を合わせられます。時計はこのとき動き始めます。

10 レンズバリアを閉じます。

カメラの電源がオフになります。

注意　電池を抜いて約1時間放置したり、電池が消耗していると、日時の設定が消えたり遅れたりします。大切なものを撮る前には、日時の設定が正しいことを確認してください。

再生モードからも同じ手順で設定することができます。

メニューとタブのしくみ

カメラの電源をONにして ボタンを押すと、液晶モニタにトップメニューが表示されます。カメラの各設定はメニューで行います。ここでは撮影モードの画面を使って、メニューのしくみについて説明します。

●メニューの操作方法

1 ボタンを押してトップメニューを表示させ ボタンを押します。

トップメニュー

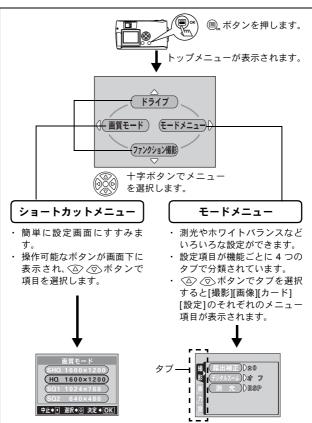
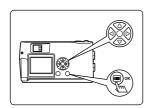
2 十字ボタンの を押してタブを選択し、 ボタンを押します。

撮影タブ

画像タブ

ボタンを押すとタブの選択に戻ります。

カードタブ

設定タブ

3 ボタンを押して設定する項目を選択し、ボタンを押します。

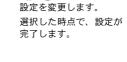
選択された項目に緑色の枠が移動ます。

ボタンまたはボタンを押すとメニュー項目の選択に戻ります。

4 ボタンを押して設定を変更します。

選択した時点で、設定が完了します。

ボタンを2回押すとメニューが終了します。

メモ

- カメラの状態や設定内容などにより選択できない項目があります。
- 撮影時にメニューを表示した状態でシャッターボタンを押すと、そのとき選択されている設定状態で撮影することができます。
- 設定した機能を電源を切っても保持させておきたい場合は、「設定クリア」の機能を「オフ」に設定してください。「電源を切っても設定を残す（☞ P.92）」

●ショートカットメニュー一覧

●撮影モード

静止画撮影時

ムービー撮影時

ドライブ

単写	1枚ずつ撮影します。	P.36
連写	連続して撮影します。	P.52
ムービー	ムービー撮影をします。	P.41

画質モード

撮影する画像の画質を選択します。 静止画　：SHQ、HQ、SQ1、SQ2 ムービー：HQ、SQ	P.59

ファンクション撮影

合成ツーショット	連続して撮影した2枚の静止画を合成します。	P.64
セルフポートレート	撮影者がカメラを持って、自分自身を撮影します。	P.66
パノラマ	カードのパノラマ機能を使って、パノラマ撮影をします。	P.62

●再生モード

静止画再生時

ムービー再生時

自動再生

記録されている静止画を順に表示します。	P.71

ムービー再生

ムービーを再生します。	P.73

情報表示

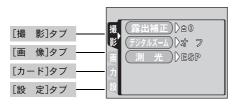
画像の撮影情報をすべて表示します。	P.94

1コマ消去

選択した画像を消去します。	P.75

●モードメニュー一覧

モードメニューの中は4つのタブに分けられています。⊿▽ボタンを押してタブを選択すると、それぞれの機能が表示されます。

●撮影モード

[撮　影]タブ		
露出補正	画像の明るさを調整します。	P.53
デジタルズーム	光学ズームの最大倍率からさらに高倍率(最大約5倍)のズーム撮影が可能です。	P.44
測光	画像の明るさを決める範囲を[ESP][スポット]から選択します。	P.55

[画　像]タブ		
ホワイトバランス	光源に応じて、適切なホワイトバランスを設定します。	P.57

[カード]タブ		
カードセットアップ	カードをフォーマットします。	P.88

[設　定]タブ		
設定クリア	カメラの電源をオフにしたときに設定内容を保持するかどうかを選択します。	P.92
ビープ音	カメラの操作音や警告音をオフにします。	P.87
レックビュー	撮影した画像の記録中に、その画像を液晶モニタに表示するかどうかを選択します。	P.90
モニタ調整	液晶モニタの明るさを調整します。	P.95
日時設定	日付と時刻を設定します。	P.26

●再生モード

[再　生]タブ		
プロテクト	画像を誤って消去しないようにプロテクト(保護)します。	P.78
回転表示	撮影した画像を時計回り（+90°）、または反時計回り（-90°）に回転して表示させます。	P.83
プリント予約	カードにプリント予約します。	P.99

[編　集]タブ		
モノクロ作成	撮影した画像からモノクロ画像を作成します。	P.80
セピア作成	撮影した画像からセピア画像を作成します。	P.81
リサイズ	撮影した画像の画像サイズを小さくした画像を作成します。	P.82
インデックス作成	撮影したムービーを9分割画面で表示するインデックス画像を作成します。	P.85

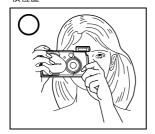
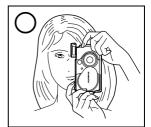
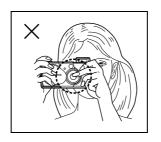
[カード]タブ		
カードセットアップ	カードをフォーマットします。	P.88
	カード内の全ての画像・データを消去します。	P.76

[設　定]タブ		
設定クリア	カメラの電源をオフにしたときに設定内容を保持するかどうかを選択します。	P.92
ビープ音	カメラの操作音や警告音をオフにします。	P.87
インデックス表示	インデックス再生時、液晶モニタに表示する画像の枚数を設定します。	P.70
モニタ調整	液晶モニタの明るさを調整します。	P.95
日時設定	日付と時刻を設定します。	P.26

撮影しましょう

カメラの正しい構え方

両手でしっかりカメラを持ち、脇をしっかりしめます。
縦位置で撮影するときは、フラッシュが上になるようにします。

横位置

縦位置

悪い例
レンズとフラッシュに指やストラップがかからないよう、ご注意ください。

メモ　シャッターボタンを押し込んだときにカメラがぶれると、きれいな画像が撮れません。正しく構えて、静かにシャッターボタンを押しましょう。

静止画を撮る

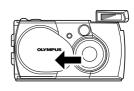
ファインダを見て撮る方法と、液晶モニタを見て撮る方法があります。どちらもシャッターボタンを押すだけで、手軽に撮ることができます。

●ファインダを見て撮る

1 **レンズバリアを開けます。**

カチッと音がするまでスライドさせてください。
フラッシュが起き上りレンズがせり出します。

2 **ファインダ内のAFターゲットマークに撮りたいものを合わせます。**

50cm以内の距離で撮影するときは、マクロ撮影をしてください。「近くのものを撮る（☞P.46）」

3 **シャッターボタンを軽く押します。**

（この状態を半押しといいます。）
ピントと露出が固定されると、緑ランプが点灯します。このときカメラ内部で動作音がしますが、撮影はされていません。

4 **半押しの状態から、さらにシャッターボタンを押し込みます。**

（この状態を全押しといいます。）
撮影されます。

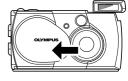
メモ
- 緑ランプが点滅したときは、ピントが合っていません。シャッターボタンから指を離し、ピントを合わせる位置を少しずらして再びシャッターボタンを軽く押してください。「ピントが合わないときは（☞P.39）」
- 被写体までの距離が近すぎるときは、緑ランプが点滅します。マクロ撮影に設定してください。「近くのものを撮る（☞P.46）」

●液晶モニタを見て撮る

1 **レンズバリアを開けます。**

カチッと音がするまでスライドさせてください。
フラッシュが起き上りレンズがせり出します。

2 **(▣)ボタンを押します。**

液晶モニタが点灯します。「液晶モニタの表示（☞P.14）」

3 **液晶モニタを見ながら構図を決めます。**

4 **ファインダを使った撮影と同じ手順で撮影します。**

「●ファインダを見て撮る（☞P.36）」
液晶モニタを消灯して撮影するときは、もう一度(▣)ボタンを押してください。

- シャッターボタンを半押ししてオレンジランプが遅く点滅しているときは、フラッシュ充電中です。撮影後にオレンジランプが早く点滅しているときは、画像を保存中です。点滅が終わるまで、お待ちください。
- メモリゲージがいっぱいになると撮影できません。数秒待って、メモリゲージが消灯してから撮影してください。「●メモリゲージについて（☞ P.15）」
- 液晶モニタは構図を確認するものです。手ぶれやピント、正確な露出については、拡大表示をして確認してください。「●クローズアップ再生（☞ P.68）」

注意

- シャッターボタンは静かに押してください。シャッターボタンを強く押すとカメラが動き、写真がぶれる原因になります。
- オレンジランプの点滅中は、絶対に電池や AC アダプタを抜かないでください。また、カードカバーを開けないでください。撮影した画像が保存されないだけでなく、撮影済みの画像が破壊されるおそれがあります。

●ファインダと液晶モニタを使い分ける

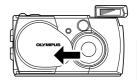
	ファインダ	液晶モニタ
長所	カメラがぶれにくく、周囲が明るくても写したいものがはっきり見えます。 電池の消耗が少ないです。	撮影する範囲を正しく確認できます。
短所	近くのものを撮影するとき、ファインダで見える範囲と撮影できる画像とのあいだにずれが生じます。	手ぶれが起こりやすく、周囲が明るいときや暗いときでは見えにくいことがあります。電池の消耗が早くなります。
こんな撮影に	スナップや風景写真など、気軽に撮影したいとき。（約50cm～遠距離）	実際に写る範囲を確認しながら、撮影したいとき。人物や花のアップなど近くの被写体を撮るとき。（約20～50cm）

- ファインダで見た構図より、実際にはやや広い範囲が撮影されます。
- 写すものとの距離が近いと左図のように、実際に撮影される画面の範囲（斜線部）は、ファインダで見ている範囲と多少異なってきます。

ピントが合わないときは(フォーカスロック)

ピントを合わせたいものがAFターゲットマークから外れる（中央にない）ときは､次の操作で構図の好きな場所にピントを固定して撮影することができます。これをフォーカスロックといいます。

1 **レンズバリアを開けます。**

撮影モードで電源が入ります。

2 **ファインダーをのぞき、ピントを合わせたいものにAF ターゲットマークを合わせます。**

ピントが合いにくいものや、速く走るものの場合はまず撮影したいものとほぼ同じ距離のものにカメラを向けます。

3 **シャッターボタンを、ファインダ横の緑ランプが点灯するまで半押しします。**

ピントと露出が固定されると、緑ランプが点灯します。

4 **半押しの状態のまま撮影したい構図に合わせます。**

5　シャッターボタンを全押しします。

メモ

- 被写体までの距離が近すぎるときは、緑ランプが点滅します。マクロ撮影に設定してください。「近くのものを撮る（☞ P.46)」
- 緑ランプが点滅したときは、ピントが合っていません。シャッターボタンから指を離し、ピントを合わせる位置を少しずらして再びシャッターボタンを軽く押してください。「ピントが合わないときは（☞ P.39)」

●オートフォーカスが苦手な被写体

次のような場合、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。いずれの場合も、被写体と同距離にあるコントラストのはっきりとしたものでフォーカスロックした後、構図を決めて撮影してください。また、縦線のない被写体の場合は、カメラを縦位置に構えてフォーカスロックした後、構図を横に戻して撮影しても効果的です。

ファインダ横の緑ランプ点滅
このようなものにはピントが合いません

コントラストがはっきりしない被写体

画面中央に極端に明るいものがある場合

縦線のないもの

ファインダ横の緑ランプは点灯するが、写したいものにピントが合わない

遠いものと近いものが混在する場合

動きの速いもの

ピントを合わせたいものが中央にない

ムービーを撮る

動画が撮影できます。撮影した動画はカメラで再生したり、インデックス作成機能で静止画として別に保存することができます。「インデックス作成（☞P.85）」

1 撮影モードでトップメニューを表示します。

2 ◇ボタンを押して[ドライブ]を選択します。

3 ◇◇ボタンを押して[ムービー]を選択し、◎を押します。

ムービー撮影に設定され、撮影モードに戻ります。

液晶モニタに 🎥 と使用されているカードで記録できる撮影可能秒数の合計が表示されます。

4 液晶モニタを見ながら撮影します。

シャッターボタンを押すとムービー撮影が開始されます。撮影が始まると連続して記録できる撮影可能秒数が表示されます。

もう一度、シャッターボタンを押すとムービー撮影が終了します。

撮影可能秒数

撮影しましょう

●ムービー撮影を解除するには

(◎)ボタンを押します。

液晶モニタが消灯し、ムービー撮影が解除されます。

メモ

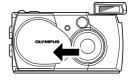
- レンズバリアを閉じるとムービー撮影が解除されます。「電源を切っても設定を残す（☞ P.92)」
- フラッシュ、光学ズームは使用できません。ズームを使用するときは、デジタルズームをオンに設定してください。「●デジタルズームを使う（☞ P.44)」
- ムービー撮影は、画像の保存にしばらく時間がかかります。
- 撮影可能秒数は、画質、カードの空き容量などにより変わります。
- 音声は録音できません。

拡大して撮る（光学ズーム/デジタルズーム）

ズーム倍率3倍（光学ズーム 35mmカメラ換算：38mm～114mm）の望遠や広角撮影が行えます。デジタルズームと組み合わせて使用すると、最大約15倍相当の撮影ができます。

●光学ズームを使う

1 **レンズバリアを開けます。**

撮影モードで電源が入ります。

2 **ファインダを見ながらズームレバーをスライドします。**

ズームレバーをT側に引くと望遠になります。

ズームレバーをW に押すと広角になります。

3 **ファインダを見ながら撮影します。**

●デジタルズームを使う

デジタルズームを使用するには撮影メニューで「デジタルズーム」を「オン」に設定します。
画質モードの設定により最大倍率は変わります。

静止画	SQ1、HQ、SHQ	：2.5倍まで
	SQ2	：5倍まで
ムービー	HQ、SQ	：3倍まで

「画像のクォリティとサイズを変える（☞P.59）」

1 **撮影モードでトップメニューを表示します。**

- レンズバリアを開けます。
- ボタンを押します。

2 **ボタンを押して［モードメニュー］を選択します。**

3 **ボタンを押して[撮影]タブを選択し、ボタンを押します。**

4 **ボタンを押して[デジタルズーム]を選択し、を押します。**

5 ボタンを押して[オン]を選択し、ボタンを押します。

デジタルズームが設定されます。
ボタンを押すと、メニューが終了します。

6 ズームレバーをT側に引きます。

ズームバーが表示されます。

ズームの拡大率によってバーが移動します。

メモ

- ズームバーの白い部分が光学ズームの領域です。デジタルズームが設定されている場合は、ズームバーに赤い領域が表示されます。光学ズームで最大までズームアップすると、デジタルズームになります。
- デジタルズームの領域で撮影すると、画像が粗くなることがあります。
- 高倍率になるほど手ぶれが起こりやすくなります。手ぶれ防止のため、三脚を使うなどして、カメラを固定してください。
- 液晶モニタをオフにするとデジタルズームは解除されます。ただし、デジタルズームがオンに設定されている場合、再び液晶モニタをONにするとデジタルズームも使用できる状態になります。

近くのものを撮る（マクロ）

20～50cmの距離で撮影するときに使います。

通常撮影

マクロ撮影

1 **レンズバリアを開けます。**

撮影モードで電源が入ります。

2 **ボタンを押します。**

液晶モニタが点灯し、現在のマクロの設定が表示されます。

3 **現在のマクロの設定が表示されている状態で ボタンを押します。**

ボタンを押すたびに[マクロオン][マクロオフ]の順で設定は変わります。マクロに設定されると液晶モニタに が表示されます。

4 **液晶モニタを見ながら撮影します。**

マクロ撮影をやめるときは ボタンを繰り返し押して[マクロ オフ]を表示させます。 マークが消えます。

メモ

レンズバリアを閉じるとマクロが解除されます。「電源を切っても設定を残す（☞ P.92）」

- マクロ撮影時は、被写体との距離を20～50cmの間に保ってください。近づきすぎると緑ランプが点滅します。
- フラッシュ使用時は影が目立ったり適正な明るさにならないことがあります。

フラッシュを使う

フラッシュの設定がオート発光（初期設定）のときには、暗いところや強い逆光でフラッシュが自動的に発光されますが、状況に応じて発光のしかたを変更することもできます。撮影状況、目的にあわせてフラッシュの設定をお選びください。

1 レンズバリアを開けます。

撮影モードで電源が入ります。

2 ボタンを押します。

現在のフラッシュの設定が表示されます。

3 現在のフラッシュの設定が表示されている状態でボタンを押します。

ボタンを押すたびに[オート発光][赤目軽減][強制発光][発光禁止][夜景][夜景赤目]の順で設定は変わります。

4 撮影します。

メモ

- フラッシュの光が届く範囲は、約2.5mまでです。
- レンズバリアを閉じるとオート発光（初期設定）に戻ります。「電源を切っても設定を残す（☞ P.92）」

- オレンジランプが点滅しているときはフラッシュの充電中です。フラッシュが必要な条件ではシャッターが切れません。オレンジランプが消灯するまでお待ちください。
- 近い距離でフラッシュ撮影すると影が目立ったり適正な明るさにならないことがあります。
- 連写、パノラマ、ムービー撮影ではご使用になれません。

●オート発光（表示なし）

暗いときや逆光のとき、フラッシュが自動的に発光します。
逆光で撮影するときは、撮りたいものにターゲットマークを合わせて撮影してください。

●赤目軽減（◎）

人物を撮影すると目が赤く写ることがありますが、[赤目軽減]に設定するとこの現象が軽減されます。本発光の前に数回の予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。

目が赤く写ります

- 最初の予備発光からシャッターが切れるまで約1秒かかります。カメラをしっかり構えて手ぶれを防いでください。
- フラッシュを正面から見ていない場合や、予備発光を見ていない場合、距離が遠い場合などや個人差により、赤目軽減の効果が現れにくくなります。

●強制発光（ϟ）

フラッシュを必ず発光させます。木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときに使用します。

非常に明るい状況下では、効果が現れにくくなることがあります。

●発光禁止（）

暗いところでも発光させたくないときに使用します。美術館などのように、フラッシュを使用できない場所での撮影に使用します。フラッシュが届かない遠景の夜景・夕景を撮りたいときにも使用します。

●夜景（）

夜景を撮影するときに使用します。遅いシャッター速度でフラッシュが発光するので、背景を写しこむことができ、手前の人物と背景の両方を撮影することができます。

●夜景赤目（）

夜景をバックに人物を撮影するとき、人物の赤目現象を軽減します。予備発光を行って赤目を軽減します。

フラッシュモードが［発光禁止］［夜景］［夜景赤目］のとき、暗い場所ではシャッタースピードが遅くなります。このときはカメラぶれを防ぐため、三脚のご使用をおすすめします。また、暗い場所などではフラッシュが［発光禁止］に設定されていると、手ぶれ警告としてオレンジランプが点滅しますが、撮影はできます。また、動いているものを撮るとぶれて写ります。

セルフタイマーを使う

セルフタイマーを使って撮影できます。カメラを三脚にしっかりと固定してから撮影してください。記念写真を撮るときに便利です。

1 レンズバリアを開けます。

撮影モードで電源が入ります。

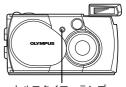
2 ⓥボタンを押します。

液晶モニタが点灯し、現在のセルフタイマーの設定が表示されます。

3 現在のセルフタイマーの設定が表示されている状態でⓥボタンを押します。

ⓥボタンを押すたびに［セルフタイマーオン］［セルフタイマーオフ］の設定が変わります。

4 撮影します。

シャッターボタンを押すとセルフタイマーランプが約10秒間点灯し、さらに2秒間点滅した後、撮影されます。

セルフタイマーランプ

メモ
- セルフタイマーモードは、設定クリアがオフになっていても、撮影をするかレンズバリアを閉じると、自動的に解除されます。
- シャッターボタンを押した後に撮影を中止したいときは、ⓞボタンを押してください。

連続で撮る（連写）

シャッターボタンを押している間、約1.1コマ／秒で約5枚以上（HQ使用時）の静止画を連続して撮影する機能です。連続した画像の中から好みの画像を選べるため、動いているものの撮影におすすめです。連写した後で不要な画像は、消去することもできます。「●1コマ消去（☞ P.75）」

1 撮影モードでトップメニューを表示します。

- レンズバリアを開けます。
- ボタンを押します。

2 ボタンを押して[ドライブ]を選択します。

3 ボタンを押して[連写]を選択し、ボタンを押します。

連写が設定され、メニューが終了します。

4 撮影します。

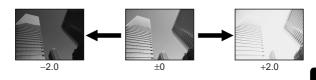
シャッターボタンを押している間は連写が続きます。指をはなすと連写が止まります。

メモ

- レンズバリアを閉じると連写が解除されます。「電源を切っても設定を残す（☞ P.92）」
- フラッシュは使用できません。
- 手ぶれを抑えるため、シャッター速度は最長 1/30 秒に設定されています。そのため暗い被写体は通常より暗く写る場合があります
- 連写可能な枚数や連写のスピードは、被写体、画質、カードの残量などにより変わってきます。

連写は、撮影画像の保存にしばらく時間がかかることがあります。

画像の明るさを変える（露出補正）

撮影する被写体によっては、カメラが自動的に設定した露出を補正したほうがよいときがあります。0.5段刻みで±2.0の範囲で設定できます。
通常、白い被写体（雪など）を撮影すると実際より暗く写ってしまいますが、[＋]に補正することにより見たままの白を表現することができます。また、黒い被写体を撮影するときは、逆に[－]に補正すると効果的です。

1 **撮影モードでトップメニューを表示します。**

- レンズバリアを開けます。
- ボタンを押します。

2 **ボタンを押して[モードメニュー]を選択します。**

3 **ボタンを押して[撮影]タブを選択し、ボタンを押します。**

4 **ボタンを押して[露出補正]を選択し、ボタンを押します。**

5 ◎◎ボタンを押して補正値を選択します。

プラス[＋]で明るく、マイナス[－]で暗くなります。
露出補正値が設定されます。
◎ボタンを2回押すと、メニューが終了します。

6 撮影します。

メモ

- レンズバリアを閉じると、露出補正が±0（初期設定）に戻ります。「電源を切っても設定を残す（☞ P.92）」
- 液晶モニタを見ながら露出補正すると、表示されている画像の明るさも変わります。撮るものによっては変化がわかりにくい場合があります。そのときは画像を再生してご確認ください。

注意

- フラッシュを使用すると意図した明るさ（露出）で撮影できないことがあります。
- 撮るものの周囲が極端に明るいときや極端に暗いときは、露出補正では補正しきれないことがあります。

中央部の明るさを優先して撮る（測光）

逆光のとき、通常の測光の測定値（デジタルESP測光）では撮りたいものが暗くなることがあります。この場合、スポット測光に変更すると、背景の光に影響されることなく、ファインダ中央部の明るさに合わせて撮影できます。

測光の設定

ESP（表示なし）　ファインダの中央部と周辺部を別々に測光して、最適な露出にします。

スポット（［•］）　ファインダの中央部のみを測光します。中央部の被写体に適正な露出にします。

1 撮影モードでトップメニューを表示します。

- レンズバリアを開けます。
- (≡)OK ボタンを押します。

2 ▷ボタンを押して[モードメニュー]を選択します。

3 △▽ボタンを押して[撮影]タブを選択し、▷ボタンを押します。

4 △▽ボタンを押して[測光]を選択し、▷ボタンを押します。

5 **ボタンを押して[スポット]を選択します。**

スポット測光が設定されます。
ボタンを2回押すと、メニューが終了します。

6 **ファインダ内の AF ターゲットマークに撮りたいものを合わせて撮影します。**

メモ

レンズバリアを閉じると、ESP（初期設定）に戻ります。「電源を切っても設定を残す（☞ P.92）」

画像の色合いを調整する（ホワイトバランス）

被写体は光源によって色が変わります。たとえば、白い紙に晴天時の太陽があたっているとき、夕日があたっているとき、電球の灯りがあたっているときでは、それぞれの白が違います。ホワイトバランスを調整することにより、このような光源による微妙な色の違いを見たままの色に表現することができます。

ホワイトバランスの設定

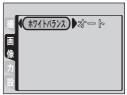
オート（表示なし）	自然な色合いで写るよう自動的に調整します。
晴天( )	晴れた屋外で自然な色に写ります。
曇天( )	曇った屋外で自然な色に写ります。
電球( )	電球の灯りで自然な色に写ります。
蛍光灯( )	蛍光灯の灯りで自然な色に写ります。

1 **撮影モードでトップメニューを表示します。**

- レンズバリアを開けます。
- ボタンを押します。

2 **ボタンを押して[モードメニュー]を選択します。**

3 **ボタンを押して[画像]タブを選択し、ボタンを押します。**

4 **ボタンを押します。**

5 **△▽ボタンを押して[オート][晴天][曇天][電球][蛍光灯]から選択します。**

ホワイトバランスが設定されます。
ボタンを2回押すと、メニューが終了します。

6 **撮影します。**

メモ

- レンズバリアを閉じると、オート（初期設定）に戻ります。「電源を切っても設定を残す ☞ (P.92)」
- 電球の下で見たままに近い雰囲気で撮りたいときなどは、[晴天]に設定すると効果的です。

注意

- 特殊な光源下では、ホワイトバランスが思ったとおりに機能しない場合があります。
- オート以外のホワイトバランスに設定して撮影した場合、画像を再生して色を確認してください。
- オート以外のホワイトバランスに設定してフラッシュを発光した場合、液晶モニタで見た色と異なった色で撮影されることがあります。

画像のクォリティとサイズを変える（画質）

撮影する画像の画質を設定します。プリンタ用、パソコンでの加工用、ホームページ用など、用途に合わせて画質モードをお選びください。

静止画の画質設定

画質モード	特徴	記録サイズ（画素数）	画質	データ容量
SHQ（スーパーハイクォリティ）	•きれいにプリントしたいとき。 •A4サイズなどに大きくプリントしたいとき。 •パソコンで画像を加工したいとき。 •高画質になるため、撮影可能枚数は少なくなります。また、画像の保存に時間がかかります。	1600×1200ピクセル※	きれい ↑	大きい ↑
HQ（ハイクォリティ）	•パソコンで画像を編集するときや葉書大にプリントするとき。 •初期設定値です。	1600×1200ピクセル※		
SQ（スタンダードクォリティ）	•メールに添付するときやパソコンで画像を見るとき。 •標準的な画質です。撮影可能枚数は多くなります。	SQ1 1024×768ピクセル※ SQ2 640×480ピクセル※	↓ 普通	↓ 小さい

ムービーの画質設定

画質モード	特徴	記録サイズ（画素数）	画質	データ容量
HQ（ハイクォリティ）	1回の撮影で連続15秒間記録できます。	320×240ピクセル※	きれい ↑	大きい ↑
SQ（スタンダードクォリティ）	1回の撮影で連続60秒間記録できます。	160×120ピクセル※	↓ 普通	↓ 小さい

※ピクセルとは、画像の大きさを表す単位です。「●画質モードと記録サイズの関係について（☞ P.61）」

1 **撮影モードでトップメニューを表示します。**

- レンズバリアを開けます。
- (≣)OK ボタンを押します。

2 **◁ボタンを押して[画質モード]を選択します。**

3 **△▽ボタンを押して画質を選択し、(≣)OK ボタンを押します。**

静止画の場合は[SHQ][HQ][SQ1][SQ2]から、ムービーの場合は[HQ][SQ]から選択できます。
画質が設定され、メニューが終了します。

静止画の場合

4 **撮影します。**

メモ
- レンズバリアを閉じると、画質の設定がHQ（初期設定）に戻ります。「電源を切っても設定を残す（☞ P.92）」
- 静止画の画質とムービーの画質は設定メニューが異なり、ムービーの画質を変更しても、静止画の画質は変更されません。

●画質モードと記録サイズの関係について

・記録サイズ

画像をカードに記録する際の大きさ（横の画素数×縦の画素数）です。画像をプリントするときは、大きなサイズで記録しておくときれいにプリントされます。ただし、記録サイズが大きくなるほどファイルサイズ（データの量）も大きくなり、カードに記録できる枚数は少なくなります。

・記録サイズとパソコンモニタ上での画像の大きさ

撮影した画像をパソコン上で見る場合に表示される画像の大きさは、パソコンのモニタ設定によって異なります。たとえば、1024×768ピクセルの記録サイズで撮影された画像は、パソコンのモニタ設定が1024×768のとき画像を等倍（100%）で表示すると、モニタ全体に表示されます。モニタ設定がそれ以上（1280×1024など）になると、モニタの一部にしか表示されません。

●撮影可能枚数

撮影可能な枚数は、おおよその目安です。

	静止画（枚数）			
画質 / カード	SHQ	HQ	SQ1	SQ2
8MB	5	16	29	49
16MB	11	33	58	99
32MB	22	66	117	199
64MB	45	132	234	398
128MB	91	266	469	798

パノラマ撮影

付属の当社標準カードを使うと、パノラマ撮影が簡単に楽しめます。被写体の端が重なるようにして撮影した何枚かの画像を、CAMEDIA Master（付属のCD－ROMに収録）でつなぎ合わせ、1枚のパノラマ合成画像を作成することができます。

1 **撮影モードでトップメニューを表示します。**

- レンズバリアを開けます。
- ボタンを押します。

2 **ボタンを押して[ファンクション撮影]を選択します。**

3 **ボタンを押して[パノラマ]を選択し、ボタンを押します。**

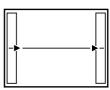
パノラマが設定されます。液晶モニタが自動的に点灯します。

4 **十字ボタンでつなげる方向を指定します。**

：次の画像を右につなげます。

：次の画像を左につなげます。

：次の画像を上につなげます。

：次の画像を下につなげます。

左から右へ画像をつなぐ撮影をする場合

5 被写体の端が重なるように撮影します。

最大10枚までパノラマ撮影が可能です。

つなげる部分が同じ画像になるように構図を設定してください。

10枚撮り終わると警告マークが表示されます。

6 終了するには ⊜ ボタンを押してください。

⊜ ボタンを押すか、レンズバリアを閉じるとパノラマ撮影が解除されます。

- パノラマ合成機能付きのカード以外では、パノラマ撮影はできません。
- 露出は、1枚目で決定されます。1枚目に太陽を入れた撮影などをしないでください。
- HQ/SHQモードで多量のパノラマ撮影をするとパソコンで合成するときにメモリ不足になることがありますので、SQ1/SQ2モードでの撮影をおすすめします。
- パノラマ撮影中はフラッシュ、連写、セルフタイマーは使用できません。
- パノラマ合成はカメラ本体ではできません。パノラマ合成画像を作成する場合は、CAMEDIA Masterをご使用ください。

合成ツーショット撮影

2回続けて撮影した画像を合成して、1枚の画像として保存します。別々の被写体を1枚の画像にして楽しむことができます。

再生時の画面

1 撮影モードでトップメニューを表示します。

- レンズバリアを開けます。
- (≡)OK ボタンを押します。

2 ▽ボタンを押して[ファンクション撮影]を選択します。

3 △ ▽ボタンを押して[合成ツーショット]を選択し、(≡)OK を押します。

合成ツーショットが設定されます。液晶モニタが自動的に点灯します。

4 液晶モニタを見ながら1回目を撮影します。

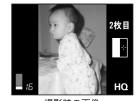
撮影した被写体は左側に配置されます。

いろいろな機能を使って撮影しましょう

5 **続けて2回目を撮影します。**

撮影した被写体は右側に配置されます。

撮影時の画像

メモ

- ボタンを押すか、レンズバリアを閉じると合成ツーショットが解除されます。
- 合成ツーショット撮影中は連写、セルフタイマーは使用できません。
- 1枚撮影後、合成ツーショットを中止したいときは ボタンを押してください。1枚目に撮影した画像は記録されません。

自分を入れて撮影をする（セルフポートレート撮影）

撮影者が手を伸ばして自分を撮るのに最適になるよう、カメラが自動的にセルフポートレート撮影に適した条件に設定します。

1 撮影モードでトップメニューを表示します。

- レンズバリアを開けます。
- ボタンを押します。

2 ボタンを押して[ファンクション撮影]を選択します。

3 ボタンを押して[セルフポートレート]を選択し、ボタンを押します。

セルフポートレートが設定され、メニューが終了します。

4 撮影します。

ズーム位置は自動的に広角に設定されます。

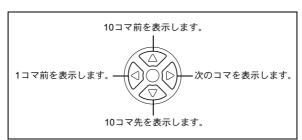
メモ
- ボタンを押すか、レンズバリアを閉じるとセルフポートレートが解除されます。
- セルフポートレート撮影中は連写、デジタルズームは使用できません。

再生しましょう

静止画の再生

液晶モニタに1コマずつ、撮影した画像を再生します。

1　レンズバリアを閉じた状態で(再生)ボタンを押します。

液晶モニタが点灯し、最後に撮影した画像が表示されます。（1コマ再生）

2　△▽◁▷ボタンを押します。

3　再生をやめるときは、(再生)ボタンを押します。

液晶モニタが消灯して電源が切れます。

メモ　電源を入れた後に液晶モニタが一瞬光り、しばらくしてから画像が表示される場合があります。

●簡単再生（ダブルクリック再生）

撮影中にレンズバリアを開いたまま、画像を再生することができます。画像を再生して確認後、すぐに撮影に戻りたいときに便利です。

1 撮影モードで ボタンをすばやく 2 回押します。（ダブルクリック）

すぐに再生モードになり、最後に撮影した画像が表示されます。（1 コマ再生）

2 シャッターボタンを軽く押します（半押し）。

撮影モードに戻り、撮影することができます。

メモ　簡単再生で表示した画像は、通常の再生モードと同様に、各機能が使用できます。

●クローズアップ再生

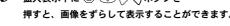
液晶モニタに表示される画像を1.5倍、2倍、2.5倍、3倍と段階的に拡大表示します。撮った画像の細かい部分を確認したいときに便利です。

1 レンズバリアを閉じて ボタンを押します。

液晶モニタが点灯し、最後に撮影した画像が表示されます。
 ボタンを押して、拡大表示する画像を選択してください。

2 ズームレバーを T 側に引きます。

画像が1.5倍に拡大されます。
ズームレバーを引くごとに拡大して表示されます。拡大表示からズームレバーを W 側に押すと1倍の大きさに戻ります。

3 拡大表示中に ボタンを押すと、画像をずらして表示することができます。

メモ　ムービーは拡大再生できません。

●インデックス再生

液晶モニタに複数の画像を一度に表示することができます。見たい画像をすばやく探したいときに便利です。一度に表示されるコマ数を4、9、16分割から選ぶことができます。「●インデックス再生のコマ数を変更するには（☞P.70）」

1　レンズバリアを閉じて(▣)ボタンを押します。

液晶モニタが点灯し、最後に撮影した画像が表示されます。（1コマ再生）

2　ズームレバーをW側に押すとインデックス再生になります。

3　十字ボタンで画像を選択します。

選択された画像が緑の枠で囲まれます。

(▷)：1つ次のコマへ移動。
(◁)：1つ前のコマへ移動。
(△)：左上の画像の1つ前までのインデックスを表示。
(▽)：右下の画像の次からのインデックスを表示。

4　ズームレバーをT側に引くと1コマ再生に戻ります。

緑の枠で選択されていた画像が1コマで表示されます。

●インデックス再生のコマ数を変更するには

インデックス再生のコマ数を4コマ、9コマ、16コマの中から選択します。

1 **再生モードでトップメニューを表示します。**

- レンズバリアを閉じて(◎)ボタンを押します。
- (▤)ボタンを押します。

2 **(▷)ボタンを押して[モードメニュー]を選択します。**

3 **(△)(▽)ボタンを押して[設定]タブを選択し、(▷)ボタンを押します。**

4 **(△)(▽)ボタンを押して[インデックス表示]を選択し、(▷)ボタンを押します。**

5 **(△)(▽)ボタンを押して[4][9][16]から選択します。**

インデックス再生のコマ数が設定されます。

(▤)ボタンを2回押すと、メニューが終了します。

●自動再生

画像を順番に、自動的に表示します。撮った画像を順に見たいときに便利です。

1 **再生モードでトップメニューを表示します。**

- レンズバリアを閉じて ボタンを押します。
- ボタンを押します。

2 **ボタンを押して［自動再生］を選択すると、自動再生がスタートします。**

1コマ3秒間表示され、自動的に次のコマに移ります。

3 **ボタンを押すと自動再生が中止され、再生モードに戻ります。**

ムービーを表示中に、トップメニューを表示すると[自動再生]のかわりに[ムービー再生]が表示されます。自動再生を行う場合は、静止画を表示させてから操作してください。

●テレビ再生

同梱のビデオケーブルでテレビに接続すると、テレビで画像を再生することができます。

1 **カメラとテレビの電源を切ってから、ビデオケーブルをカメラのビデオ出力端子とテレビのビデオ入力端子に差し込みます。**

2 **テレビの電源を入れて「ビデオ入力」に設定します。**

ビデオ入力の設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

3 **ボタンを押します。**

再生モードで電源が入り、最後に撮影された画像がテレビに表示されます。
十字ボタンで再生する画像を選択できます。
「拡大再生」「インデックス再生」「自動再生」が楽しめます。

メモ
- ビデオケーブルを接続すると、液晶モニタの表示は消えます。
- テレビで再生する場合は、ACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。
- テレビの調整により、画像が画面中央からずれることがありますが、カメラの故障ではありません。

テレビとの接続には必ず付属のビデオケーブルをご使用ください。

ムービー再生

1 レンズバリアを閉じて(▣)ボタンを押します。

液晶モニタが点灯します。

2 ◁ ▷ボタンを押して、再生したい🎥マークの付いた画像を表示させ、(≡)ₒₖボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

3 △ボタンを押して［ムービー再生］を選択します。

ファインダ横のオレンジランプが点滅し、データが読み込まれた後ムービーが再生されます。再生が最後まで終わるとムービーの先頭に戻ります。

4 (≡)ₒₖボタンを押します。

メニューが表示されます。
再生：もう一度再生します。
コマ送り：コマ送りをします。
中止：再生を中止します。

5 △ ▽ボタンを押して［再生］［コマ送り］［中止］を選択して、(≡)ₒₖボタンを押します。

●[コマ送り]を選択したときの操作

- ：ムービーの先頭のコマを表示します。
- ：ムービーの末尾のコマを表示します。
- ：ムービーのコマが進みます。押し続けると再生します。
- ：ムービーのコマが戻ります。押し続けると逆再生します。
- ：ムービー再生メニューが表示されます。

メモ

他のムービーを再生したいときは、ムービー再生メニューから[中止]を選択していったんムービー再生を終了します。次に、再生したいマークの付いたコマを表示させて、もう一度トップメニューから[ムービー再生]を選択してください。

画像の消去

撮影した画像を消去します。再生している1コマのみを消去する1コマ消去とカード内の全ての画像を消去する全コマ消去があります。

- 消去したい画像がプロテクトされている場合、またはカードにライトプロテクトシールが貼ってある場合は消去できません。画像のプロテクトを解除する、またはライトプロテクトシールをはがす、などの操作を行ってから消去してください。
- 消去した画像は元に戻せません。消去する前に、大切なデータを消さないように十分に注意してください。「大切な画像を消さないようにする（☞ P.78）」

●1コマ消去

1 **レンズバリアを閉じて（◎）ボタンを押します。**

液晶モニタが点灯します。

2 **△▽◁▷ボタンを押して、消去したい画像を表示させます。**

「静止画の再生（☞ P.67）」

3 **（≡）ボタンを押します。**

トップメニューが表示されます。

4 **▽ボタンを押して[1コマ消去]を選択します。**

再生しましょう

5 **△ ▽ボタンを押して[消去]を選択して OK ボタンを押します。**

画像が消去され、メニューが終了します。

●全コマ消去

1 **再生モードでトップメニューを表示します。**

- レンズバリアを閉じて ボタンを押します。
- OK ボタンを押します。

2 **▷ボタンを押して[モードメニュー]を選択します。**

3 **△ ▽ボタンを押して[カード]タブを選択し、▷ボタンを押します。**

4 **▷ボタンを押します。**

再生しましょう

5 **ボタンを押して[全コマ消去]を選択して、ボタンを押します。**

フォーマットを選択すると全てのデータが消去されますので、ご注意ください。

6 **ボタンを押して[消去]を選択して、ボタンを押します。**

すべての画像が消去されます。

大切な画像を消さないようにする（プロテクト）

残しておきたい大切な画像は、プロテクト（保護）を設定してください。

1 **レンズバリアを閉じて ボタンを押します。**

液晶モニタが点灯します。

2 **ボタンを押して、プロテクトしたい画像を表示させます。**

3 **ボタンを押して ボタンを押します。**

モードメニューが表示されます。

4 **ボタンを押して[再生]タブを選択し、 ボタンを押します。**

5 **ボタンを押して[プロテクト]を選択し、 ボタンを押します。**

6 **ボタンを押して[オン]を選択します。**

プロテクトが設定されます。
ボタンを2回押すと、メニューが終了します。

再生しましょう

• プロテクトが設定された画像には O┳ マークが表示されます。

• 電源をOFFにしても、プロテクトの設定は保存されます。

• プロテクトされた画像は1コマ消去/全コマ消去できませんが、フォーマットを行うとすべて消去されます。
• ライトプロテクトシールが貼ってあるカードはプロテクト操作できません。

静止画の編集

●モノクロ作成

撮影した画像からモノクロ画像を作成します。

1 **レンズバリアを閉じて（モニター）ボタンを押します。**

液晶モニタが点灯します。

2 **（左）（右）ボタンを押して、モノクロにしたい画像を表示します。**

3 **（OK）ボタンを押して（右）ボタンを押します。**

モードメニューが表示されます。

4 **（上）（下）ボタンを押して[編集]タブを選択し、（右）ボタンを押します。**

5 **（上）（下）ボタンを押して[モノクロ作成]を選択し、（右）ボタンを押します。**

6 **（上）（下）ボタンを押して[新規作成]を選択し、（OK）ボタンを押します。**

作成中を示すバーが表示された後、再生モードに戻ります。作成されたモノクロ画像は元の画像とは別の画像として保存されます。

編集をやめるときは[中止]を選択して（OK）ボタンを押してください。

- ムービーはモノクロにすることができません。
- ライトプロテクトシールの貼っているカードは操作できません。
- カードの空き容量が不足しているときは作成することはできません。

●セピア作成

撮影した画像からセピア画像を作成します。

1 **レンズバリアを閉じて(◎)ボタンを押します。**

液晶モニタが点灯します。

2 **◁ ▷ボタンを押して、セピアにしたい画像を表示します。**

3 **(≣)OKボタンを押して▷ボタンを押します。**

モードメニューが表示されます。

4 **△ ▽ボタンを押して[編集]タブを選択し、▷ボタンを押します。**

5 **△ ▽ボタンを押して[セピア作成]を選択し、▷ボタンを押します。**

6 **△ ▽ボタンを押して[新規作成]を選択し、(≣)OKボタンを押します。**

作成中を示すバーが表示された後、再生モードに戻ります。作成されたセピア画像は元の画像とは別の画像として保存されます。

編集をやめるときは[中止]を選択して(≣)OKボタンを押してください。

- ムービーはセピアにすることができません。
- ライトプロテクトシールの貼っているカードは操作できません。
- カードの空き容量が不足しているときは作成することはできません。

●リサイズ

選択した画像のサイズを640×480、または320×240に変更して別の画像として保存します。メールに添付して送る場合など画像のデータ容量を小さくしたいときにお使いください。

1 **レンズバリアを閉じて(◎)ボタンを押します。**

液晶モニタが点灯します。

2 **◁ ▷ボタンを押して、リサイズしたい画像を表示します。**

3 **(▤)OKボタンを押して▷ボタンを押します。**

モードメニューが表示されます。

4 **△ ▽ボタンを押して[編集]タブを選択し、▷ボタンを押します。**

5 **△ ▽ボタンを押して[リサイズ]を選択し、▷ボタンを押します。**

6 **△ ▽ボタンを押して[640×480][320×240]から選択し、(▤)OKボタンを押します。**

作成中を示すバーが表示された後、再生モードに戻ります。
リサイズされた画像は元の画像とは別の画像として保存されます。

編集をやめるときは[中止]を選択して(▤)OKボタンを押してください。

- ムービーやパソコンで編集した画像は、リサイズできません。
- 選択した画像サイズが640×480以下の場合は、メニューの[640×480]は選択できません。
- 選択した画像サイズが320×240の場合は、メニューの[リサイズ]は選択できません。
- ライトプロテクトシールの貼っているカードは操作できません。
- カードの空き容量が不足しているときは作成することはできません。

●回転

カメラを縦に構えて撮影した画像は、横向きに表示されます。このような場合、回転再生を使って画像を縦向きに表示することができます。時計方向に90度、反時計方向に90度の回転ができます。

1 **レンズバリアを閉じて(□)ボタンを押します。**

液晶モニタが点灯します。

2 **◁ ▷ボタンを押して、回転したい画像を表示させます。**

3 **(≡)OKボタンを押して▷ボタンを押します。**

モードメニューが表示されます。

4 **△ ▽ボタンを押して[再生]タブを選択し、▷ボタンを押します。**

5 **△ ▽ボタンを押して[回転表示]を選択し、▷ボタンを押します。**

再生しましょう

6　◯△ ◯▽ ボタンを押して［+90°］［-90°］から選択します。

画像が回転して表示されます。

(≡)OK ボタンを2回押すと、メニューが終了します。

＋90°：時計方向
－90°：反時計方向

- ムービーやパソコンで編集した画像、プロテクトされた画像は、回転できません。
- ライトプロテクトシールの貼っているカードは操作できません。

ムービーの編集

●インデックス作成

撮影したムービーの内容が一目でわかるようにムービーを9分割して画面に表示し、一つの画像として保存（インデックス作成）することができます。

1 **レンズバリアを閉じて ◎ ボタンを押します。**

液晶モニタが点灯します。

2 **◁ ▷ ボタンを押して、🎥 マークの付いた画像を表示します。**

3 **▤OK ボタンを押して ▷ ボタンを押します。**

モードメニューが表示されます。

4 **△ ▽ ボタンを押して[編集]タブを選択し、▷ ボタンを押します。**

5 **△ ▽ ボタンを押して［インデックス作成］を選択し、▷ ボタンを押します。**

再生しましょう

6 △▽ボタンを押して[新規作成]を選択し、OKボタンを押します。

ムービーから抜き出された9コマの画像がインデックス表示された後、再生モードに戻ります。作成された画像は新規の画像として保存されます。
インデックス作成をやめるときは、[中止]を選択してOKボタンを押してください。

インデックス作成された画像は、ムービー撮影時の画質とは異なる静止画として保存されます。

ムービー撮影時の画質モード	インデックス画像の画質
HQ	SQ1（1024×768ピクセル）
SQ	SQ2（640×480ピクセル）

- ムービーの記録時間により、自動的に抜き出される画像の間隔は異なります。
- インデックス作成されるコマ数は、9コマです。
- ライトプロテクトシールの貼っているカードは操作できません。
- カードの空き容量が不足しているときは作成することはできません。

警告音を消す（ビープ音）

カメラのボタン操作音や警告音を消すことができます。

1 **撮影モードでトップメニューを表示します。**

- レンズバリアを開けます。
- ボタンを押します。

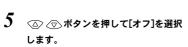
2 **ボタンを押して[モードメニュー]を選択します。**

3 **ボタンを押して[設定]タブを選択し、ボタンを押します。**

4 **ボタンを押して[ビープ音]を選択し、ボタンを押します。**

5 **ボタンを押して[オフ]を選択します。**

ボタンを 2 回押すと、メニューが終了します。

メモ

- レンズバリアを閉じても、ビープ音の設定は保持されます。
- 再生モードからも同じ手順で設定することができます。

フォーマットする（カードセットアップ）

カードをフォーマットします。フォーマットとは、カードをこのカメラで書き込みできるように初期化することです。当社製以外のカードやパソコンでフォーマットしたカードを使用する場合は、必ずこのカメラでフォーマットしてください。

注意　プロテクトされた画像もすべて消去されます。消去された画像は元に戻りませんので、十分に注意してください。

1 **撮影モードでトップメニューを表示します。**

- レンズバリアを開けます。
- ボタンを押します。

2 **ボタンを押して[モードメニュー]を選択します。**

3 **ボタンを押して[カード]タブを選択し、ボタンを押します。**

4 **ボタンを押します。**

5 **ボタンを押して[フォーマット]を選択し、ボタンを押します。**
フォーマットされます。

カメラの設定をしましょう

再生モードからも同じ手順で設定することができます。

- フォーマット中は絶対にカードカバーを開けたり、電池を取り外したりしないでください。カードが正常に動作しなくなるおそれがあります。
- フォーマット中は AC アダプタの抜き差しをしないでください。カードが正常に動作しなくなるおそれがあります。
- 当社製テンプレートカード（別売）をフォーマットすると、カード中のテンプレート情報は失われます。テンプレートカード中の画像データをパソコンにバックアップすることをお勧めします。詳しくはテンプレートカードの説明書をお読みください。
- ライトプロテクトシールの貼ってあるカードはフォーマットできません。シールをはがしてからフォーマットしてください。はがしたシールは再使用しないでください。

撮影後すぐに画像を確認する（レックビュー）

撮影した直後に、記録中の画像を液晶モニタに 3 秒間表示させて確認することができます。

レックビューの設定

[オン] 撮影した画像を記録中、液晶モニタに表示します。撮影した画像の簡単なチェックに便利です。またレックビュー中でもシャッターボタンを半押しするとすぐに次の撮影に入れます。

[オフ] 記録中の画像は表示されません。次の撮影のために被写体を追いながら撮影する場合に便利です。

1 **撮影モードでトップメニューを表示します。**

- レンズバリアを開けます。
- ボタンを押します。

2 **ボタンを押して[モードメニュー]を選択します。**

3 **ボタンを押して[設定]タブを選択し、ボタンを押します。**

4 **ボタンを押して[レックビュー]を選択し、ボタンを押します。**

5 **ボタンを押して[オン]を選択します。**

レックビューが設定されます。
ボタンを 2 回押すと、メニューが終了します。

カメラの設定をしましょう

- レンズバリアを閉じても、レックビューの設定は保持されます。
- 連写中、レックビューはされません。

電源を切っても設定を残す（設定クリア）

フラッシュや画質など、電源を切った後も変更した撮影条件の設定値を保持することができます。保持される機能については、次項の「設定クリアが適用される機能」を参照してください。

設定クリアの設定

[オン] 電源を切ると変更した設定値は初期設定に戻ります。

[オフ] 電源を切っても変更した設定値は保持されます。

1 **撮影モードでトップメニューを表示します。**

- レンズバリアを開けます。
- ボタンを押します。

2 **ボタンを押して[モードメニュー]を選択します。**

3 **ボタンを押して[設定]タブを選択し、ボタンを押します。**

設定メニューが表示されます。

4 **ボタンを押して[設定クリア]を選択し、ボタンを押します。**

5 **ボタンを押して[オフ]を選択します。**

ボタンを 2 回押すと、メニューが終了します。

- 電源を切っても、設定メニュー項目の設定値は保持されます。
- 再生モードからも同じ手順で設定できます。

●設定クリアが適応される機能

機能名	初期設定	参照頁
液晶モニタ	オフ（消灯）	P.23
ドライブ	単写（静止画）	P.36
デジタルズーム	オフ（等倍）	P.44
フラッシュ	オート	P.48
露出補正	±0	P.53
測光	ESP	P.55
ホワイトバランス	オート	P.57
画質	HQ（1600×1200ピクセル）	P.59
マクロ	オフ	P.46

画像の詳細情報を表示する（情報表示）

再生時に画像の詳細情報を 3 秒間表示することができます。表示される情報の内容については「液晶モニタの表示（☞ P.14）」を参照してください。

1　再生モードでトップメニューを表示します。

- レンズバリアを閉じて ボタンを押します。
- ボタンを押します。

2　 ボタンを押すと詳細情報が表示されます（オン）。

ボタンを押し、もう一度トップメニューを表示させて ボタンを押すと詳細情報は表示されなくなります（オフ）。

情報表示オフのとき

情報表示オンのとき

メモ

- 情報表示がオン／オフどちらの場合でも、、、 は表示されます。
- DPOF を使用せずにプリントサービスを利用される場合に指定するファイル番号は、情報表示をオンにしたときに表示されます。「プリントについて（☞ P.97）」

液晶モニタの明るさを変更する（モニタ調整）

周囲の状況に合わせて液晶モニタの明るさを調整し、より見やすくすることができます。

1 撮影モードでトップメニューを表示します。

- レンズバリアを開けます。
- OKボタンを押します。

2 ▷ボタンを押して[モードメニュー]を選択します。

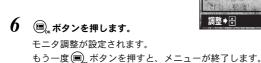
3 △▽ボタンを押して[設定]タブを選択し、▷ボタンを押します。

4 △▽ボタンを押して[モニタ調整]を選択し、▷ボタンを押します。

5 液晶モニタを見ながら△▽ボタンを押して、明るさを調整します。

△ボタンを押すと明るくなり、▽ボタンを押すと暗くなります。

6 OKボタンを押します。

モニタ調整が設定されます。
もう一度OKボタンを押すと、メニューが終了します。

メモ

- レンズバリアを閉じても、モニタ調整の設定は保持されます。
- 再生モードからも同じ手順で設定することができます。

ピクセルマッピング

CCDと画像処理機能のチェックを同時に行います。
この機能は、すでに工場出荷時に調整済みのため、お買い上げ後すぐに調整する必要はありません。調整は、年に一度を目安とし、最適な効果を得るため、撮影・再生直後より1分ほどの時間を空けた後に実行します。

1 **△▽ボタンを同時に押した状態で、レンズバリアを開きます。**

レンズがせり出して、液晶モニタが点灯するまで、ボタンを押し続けてください。

2 **△▽ボタンを押して［スタート］を選択し、OKボタンを押します。**

画面にピクセルマッピング実行中を示すバーが表示されます。
終了すると自動的に撮影モードに戻ります。

メモ

ピクセルマッピングのメニュー画面が表示された状態で10秒間放置すると、自動的に撮影モードに戻ります。

• ピクセルマッピングの処理中は、絶対にカメラから電池や AC アダプタを抜かないでください。故障の原因になります。
• 誤って処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ずもう一度このチェックを行ってください。

プリントの設定をしましょう

プリントについて

画像をプリントするには、以下の方法があります。

●プリント予約を設定してDPOF対応のお店でプリント、またはDPOF対応のプリンタでプリント

カードにプリント予約をします。プリント予約とは、カード内の画像に、プリントする枚数や日付を印刷する指定を記憶させることです。

•DPOF とは

Digital Print Order Formatの略称。デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録する形式です。

プリント予約したカードをお店に持っていくと、その予約内容のとおりにプリントできます。家庭でもDPOF対応のプリンタがあれば、可能です。

●オリンパス製デジタルプリンタCAMEDIA P-400/P-200/P-330Nでプリント

パソコンを使わずに、専用プリンタにカードを直接差し込んでプリントできます。詳しくはお使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。

●画像をパソコンに転送して、パソコンに接続しているプリンタでプリント

パソコン上でJPEGの画像を表示するソフトウェア（インターネット閲覧ソフトやペイントソフトなど）があれば、パソコンに接続したプリンタでプリントすることができます。（CAMEDIA Masterを使ってもプリントできます。）お使いのソフトウェアでプリントできることをあらかじめご確認ください。詳しくはお使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

DPOF を使用せずにプリントサービスを利用される方へ

写真店などのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。
ファイル番号は情報表示をオンにしたときに表示されます。
（例） FILE: 100-0016
フォルダの通し番号　画像の通し番号

- 他の機器でDPOF予約されているファイルがある場合、このカメラで新たにDPOF予約を行うと、以前に予約した内容は消去されます。
- 当社製デジタルプリンタ P-300 など、カメラに直接プリンタを接続してダイレクトプリントを行うプリンタでは、プリントできません。
- プリンタまたはラボにより、一部機能が制限されることがあります。
- P-330Nで印刷する場合、カード内に記録された999枚目以降の画像はプリントできません。
- プリント予約には時間がかかることがあります。

カードにプリント予約する

カードに保存されている画像にプリントする枚数、撮影日時をプリントするかしないかを設定します。DPOF対応のプリンタ、およびDPOFプリントサービスのある写真店では設定したプリント予約情報に従ってプリントできます。

- 他のDPOF対応機器で設定されたプリント予約の内容を、このカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。
- プリント予約には時間がかかることがあります。
- プロテクトシールが貼ってあるカードは、プリント予約できません。
- ムービーはプリントできません。

1 **再生モードでトップメニューを表示します。**

- レンズバリアを閉じて(▭)ボタンを押します。
- (≡)OK ボタンを押します。

2 **▷ボタンを押して[モードメニュー]を選択します。**

3 **△▽ボタンを押して[再生]タブを選択し、▷ボタンを押します。**

4 **△▽ボタンを押して[プリント予約]を選択し、▷ボタンを押します。**

●プリント予約情報を確認する

すでにプリント予約が設定されている画像がある場合は、次の画面が表示されます。前回設定したプリント予約をすべて解除するかどうかを選択します。プリント予約が設定されていないときは表示されません。次の操作「●予約する画像を選択する（☞P.100)」にお進みください。

5 **△▽ボタンを押して、予約を解除するかどうか選択し、OKボタンを押します。**

[解除する]を選択すると、プリント予約がすべて解除されます。
予約モードメニューが表示されます。

●予約する画像を選択する

1コマごとにプリントする枚数を指定するか、全コマを1枚ずつプリントするか選択します。

6 **△▽ボタンを押して、[1コマ予約][全コマ予約]から選択し、OKボタンを押します。**

[全コマ予約]を選択すると、プリント枚数は1枚に設定され、日時プリントの設定に進みます。「●撮影日時のプリントを指定する（☞P.102)」

[1コマ予約]を選択した場合は、次の操作「●プリント枚数を設定する（☞P.101)」にお進みください。

●プリント枚数を設定する（1コマ予約の場合のみ）

プリントするコマを表示して、プリント枚数を設定します。

7 **◁▷ボタンを押してプリントしたい画像を表示させます。**

すでにプリント予約されている画像（コマ）は、前に設定されたプリント枚数が表示されます。

8 **△▽ボタンを押して、プリント枚数を設定します。**

△ボタンを押すと枚数が増え、▽ボタンを押すと枚数が減ります。最高10枚まで予約できます。0枚のときはプリント予約されません。

次のコマ指定に移るときは▷ボタンを、前のコマの予約をしなおすときは◁ボタンを押します。

9 **予約がすべて終了したら OK ボタンを押します。**

すでにプリント予約されているコマは、その予約内容が設定されます。日時プリントメニューが表示されます。

●撮影日時のプリントを指定する

プリントする画像に撮影日時を付加することができます。

10 **△▽ボタンを押して日時のプリントを選択し、OKボタンを押します。**

カードプリント予約メニューが表示されます。

［無し］画像のみプリントされます。

［日付］全ての画像に撮影年月日が付加されてプリントされます。

［時刻］全ての画像に撮影時刻が付加されてプリントされます。

メモ
- カードの空き容量が足りないときは警告メッセージが表示され、メニューが終了します。
- ◁ボタンを押すと、カードプリント予約メニューに戻ります。

●予約情報を確認する

予約したコマ数、プリント総枚数、日時プリントの有無を確認します。

11 **△▽ボタンを押して[予約する]を選択し、OKボタンを押します。**

プリント予約が設定され、メニューが終了します。

[予約しない]を選択するとすべての予約設定が解除されます。

◁ボタンを押すと、日時プリントメニューに戻ります。

困ったときは

こんな表示がでたら

液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
カードを認識できません	カードが入っていません。または認識できません	カードを入れてください。またはカードを正しく入れなおしてください。
このカードは使用できません	撮影・再生・消去することができません。	市販のクリーニングペーパーでカードの金色の金属部分を拭いて、もう一度カードを入れてください。それでもこの表示が消えないときはカードをフォーマットしてください。フォーマットできない場合、このカードはご使用になれません。
書き込み禁止になっています	カードが書込み禁止になっています。	撮影する場合はカードのプロテクトシールをはがしてください。 詳しくはカードの取扱説明書をご覧ください。
カードの撮影可能枚数が0です	カードの撮影可能枚数が0のため、撮影できません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
カードに残量がありません	カードに空き容量がなく、プリント予約やファンクション撮影など新たな記録をすることができません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
画像が記録されていません	カードに記録画像がないため画像が再生できません。	カードに画像が入っていません。撮影してから再生してください。
この画像は再生できません	選択した画像が再生できません。	パソコンの画像ソフトなどで再生してください。それでも再生できない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。

カードカバーが開いています	カードカバーが開いています。	カードカバーを閉めてください。
カードセットアップ 電源オフ フォーマット 選択 実行 OK	カードがフォーマットされていません。	カードをフォーマットしてください。

故障かな？と思ったら

●うまく操作ができない

カメラが動かない、またはボタンを押しても動かない		
原因	こうしましょう	参照ページ
電源が切れている	レンズバリアを開いて、電源を入れてください。	P.23
電池の向きが正しくない	電池を正しく入れなおしてください。	P.17
電池残量が少なくなった	新しい電池を入れてください。	P.17
寒さで電池の性能が一時的に低下した	電池をポケットに入れるなどして温めてからご使用ください。	—
カメラがスリープモード（待機状態）になっている	シャッターボタンやズームレバーを操作してください。	P.23
カメラ内が結露*した	電源を入れないでしばらくおき、カメラを乾燥させてから、電源を入れてください。	—
パソコンに接続している	パソコンと接続中、カメラは動作しません。	—

* 結露：外気が寒いときに空気中にある水蒸気が急速に冷やされて水滴になること

シャッターボタンを押しても撮影ができない		
原因	こうしましょう	参照ページ
レンズバリアを閉じている	レンズバリアを開けてください。	P.36
電源が入っていない	レンズバリアを開けてください。	P.23
フラッシュの充電が完了していない	一度シャッターボタンから指を離し、オレンジランプの点滅が終わってから撮影してください。	P.48
ムービー撮影後、カードに書き込み中である	一度シャッターボタンから指を離し、オレンジランプの点滅が終わってから撮影してください。	P.15, 41
カードの容量がいっぱいになった	不要な画像を消すか、新しいカードを入れてください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。	P.75, 88
撮影中やカードの書き込み中に電池がなくなった（ファインダ横の緑ランプとオレンジランプが点滅している）	新しい電池に交換してください。	P.15

メモリゲージがすべて点灯している	メモリゲージの一番上が消灯するまで、お待ちください。	P.15
プロテクトシールが貼られている	新しいカードを入れるか、カードのプロテクトシールをはがしてください。	P.20
カードに問題がある	「こんな表示がでたら」でご確認ください。	P.103

フラッシュが発光しない		
原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュが上がりきっていない	指などでフラッシュをおさえないよう注意してフラッシュを上げきって使用してください	P.48
フラッシュが発光禁止に設定されている	フラッシュの設定を「発光禁止」以外に設定してください。	P.48
明るい被写体である	フラッシュを強制的に発光させたい場合は、フラッシュを「強制発光」に設定してください。	P.48
連写・ムービーが設定されている	連写・ムービーではフラッシュはご使用になれません。 ドライブメニューで「単写」に設定してください。	P.41, 52
パノラマ撮影をしている	パノラマではフラッシュはご使用になれません。レンズバリアを閉じて再び開けてください。	P.62

液晶モニタが見にくい		
原因	こうしましょう	参照ページ
液晶モニタの明るさの設定が適切でない	モードメニューの「液晶モニタ」で液晶モニタの明るさを調節してください。	P.95
太陽光の下である	太陽の光を手などでさえぎってください。	—

液晶モニタ上で再生できない		
原因	こうしましょう	参照ページ
電源が入っていない	レンズバリアを閉じてから◎ボタンを押し、液晶モニタを点灯させてください。	P.23, 67
撮影モードになっている	◎ボタンをすばやく 2 回押すか、レンズバリアを閉じてから◎ボタンを押して、再生モードに切り替えてください。	P.67
カードに画像が記録されていない	液晶モニタに「画像が記録されていません」と表示されます。撮影してから再生してください。	—
カードに問題がある	「こんな表示がでたら」でご確認ください。	P.103
テレビに接続している	ビデオケーブルを取り付けているときは液晶モニタは点灯しません。	P.72

画像に記録される日付が正しくない		
原因	こうしましょう	参照ページ
日時が設定されていない	日時を設定してください。お買い上げ時には日時の設定はされていません。	P.26
電池が少なくなってきた	電池が少なくなると、日時設定が解除されたり遅れたりします。新しい電池を入れて、日時を設定してください。	P.17, 26
電池を抜いて放置していた	電池を抜いた状態で数時間放置すると、日時設定が解除されます。もう一度、日時を設定してください。	P.17, 26

画像の消去・プロテクト・プリント予約ができない、カードのフォーマットができない		
原因	こうしましょう	参照ページ
プロテクトシールが貼られている	カードのプロテクトシールをはがしてから操作してください。はがしたシールは再使用しないでください。	P.20

設定した機能が電源を切ると元に戻ってしまう		
原因	こうしましょう	参照ページ
「設定クリア」の機能が「オン」に設定されている	「モードメニュー」の「設定タブ」にある「設定クリア」を「オフ」に設定してください。	P.92

●画像の仕上がりがよくない

撮影した画像が明るすぎる		
原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュの設定が「強制発光」になっていた	「強制発光」以外のフラッシュモードに設定してください。	P.48
被写体が明るすぎた	露出補正をマイナス（−）側に設定するか、カメラの向きを変えるなどの工夫をしてください。	P.53

撮影した画像が暗い		
原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュを指で覆ってしまった。	カメラを正しく構え、フラッシュを覆わないように気をつけてください。	P.35
撮りたいものがフラッシュ撮影範囲内より遠かった	フラッシュ撮影範囲内で撮影してください。	P.48
フラッシュが「発光禁止」になっていた	フラッシュを「発光禁止」以外に設定してください。	P.48
逆光状態で小さい被写体を撮影した	フラッシュを「強制発光」に設定するか、測光を「スポット」に設定して撮影してください。	P.48, 55
「連写」で撮影した	「連写」ではシャッタースピードが短くなるので、暗い場所では通常よりも暗く写るおそれがあります。ドライブメニューで「単写」に設定してください。	P.52

室内で撮影した画像の色がおかしい		
原因	こうしましょう	参照ページ
照明の色が影響した	照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P.57
撮るものに白い部分がなかった	白いものを入れて撮影するか、フラッシュを「強制発光」に設定して撮影してください。	P.48
ホワイトバランスの設定を間違えた	照明に合わせて、もう一度ホワイトバランスを設定しなおしてください。	P.57

画像の一部が欠けてしまった		
原因	こうしましょう	参照ページ
レンズに指やストラップがかかってしまった	カメラを正しく構え、レンズに指やストラップがかからないように気をつけてください。	P.35
撮影距離が近かった	液晶モニタで実際に撮影される範囲を確認しながら撮影してください。	P.37
レンズが汚れていた	レンズの汚れを拭きとってください。レンズブロワー（市販）でレンズのほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパー（市販）でやさしく拭いてください。レンズを汚れたままにしておくとかびが生えることがあります。	—

ピントが合っていない		
原因	こうしましょう	参照ページ
シャッターボタンを押すときにカメラが動いてしまった（手ぶれ）	カメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押して撮影してください。	P.35
近距離の被写体だった	マクロに設定してください。	P.46
マクロに設定されていた、マクロ撮影範囲外で撮影した	マクロ撮影をする場合はマクロ撮影範囲内で撮影してください。マクロ撮影をしない場合は、マクロを解除してください。	P.46
フラッシュが必要な暗い状況で「発光禁止」に設定していた	シャッタースピードが遅くなると手ぶれが起きやすくなります。三脚をご使用になるか、カメラをしっかり構えて撮影してください。	P.48
セルフポートレートに設定されていた	セルフポートレート撮影をしないときは、セルフポートレート設定を解除してください。	P.66

アフターサービス

● 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

● 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または当社サービスステーションにご相談ください。取扱説明書にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満一ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。

● 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。

● 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に当社では有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店また、当社サービスステーションにお問い合わせください。

● 本製品の保証、修理、サービスは日本国内でのみ有効です。本製品は日本国内専用のため、海外では修理はできません。万一、海外で故障・不具合が生じた場合は、日本国内の当社サービスステーションまでご依頼ください。

● 本製品の故障に起因する付随的損害(撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等)については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。

仕様

形式	：デジタルカメラ（記録・再生型）
記録方式	
静止画	：デジタル記録、JPEG（DCF準拠）、DPOF対応
動画	：QuickTime Motion JPEGに準拠
記録媒体	：スマートメディア（4/8/16/32/64/128MB） ※2MB、5Vカードは使えません。
記録画素数	：1600×1200ピクセル（SHQ/HQ） 1024×768ピクセル（SQ1） 640×480ピクセル（SQ2）
記録コマ数	
8MB カード使用時	：SHQ/約5枚、HQ/約16枚、SQ1/約29枚、SQ2/約49枚
カメラ部有効画素数	：200万画素
撮像素子	：1/3.2型（インチ）CCD固体撮像素子、211万画素（総画素数）
レンズ	：オリンパスレンズ5～15mm、F2.8/4.9、7群8枚（35mmフィルム換算38～114mm相当）
測光方式	：撮像素子によるデジタルESP測光方式
絞り	：F2.8、F4.9
シャッター	：1/2～1/1000秒
撮影範囲	：0.5m～∞（通常） 0.2m～0.5m（マクロ撮影時）
ファインダ	：光学実像式ファインダ（ターゲットマーク入り）
液晶モニタ	：1.5型（インチ）TFTカラー液晶（低温ポリシリコン）、11.4万画素
フラッシュ充電時間	：約9秒
コネクタ	：DC入力端子、USB接続端子（mini-B）、ビデオ出力端子（NTSC方式）
自動カレンダー機能	：2000～2099年の範囲で自動修正

使用環境

温度	：0～40℃（動作時）／－20～60℃（保存時）
湿度	：30～90％（動作時）／10～90％（保存時）
電源	：単 3 アルカリ電池／リチウム電池／ニッケル水素電池／ニッカド電池を2本使用 あるいはリチウム電池パックCR-V3（当社製LB-01）1個 または専用ACアダプタ ※単 3 マンガン電池は使用できません
大きさ	：幅112mm×高さ62mm×厚さ35mm （突起部を除く）
重さ	：175g（電池／カード別）

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

索引

英数

AC アダプタ 18
AFターゲットマーク 13
DC 入力端子 13
DPOF 97, 98
ESP 測光 55
HQ 59
OK/ メニューボタン 13
SHQ 59
SQ 59
SQ1 59
SQ2 59
USB 端子 13
1 コマ再生 67
1 コマ消去 75

あ行

赤目軽減 49
アルカリ電池 18
インデックス再生 69
インデックス作成 85
インデックス表示 70
液晶モニタ 13, 14, 37
液晶モニタボタン 13
オート発光 49
オートフォーカス 36
オレンジランプ 13

か行

カード 20
カードカバー 13
カードセットアップ 25, 88
回転 83
画質 59
画質モード 31, 59
簡単再生 .68
強制発光 .50
記録サイズ 59
クローズアップ再生 68
蛍光灯 57
光学ズーム 43
合成ツーショット 64
コネクタカバー 13
コマ番号 .14

さ行

再生モード 23
撮影可能秒数 14
撮影可能枚数 14
撮影モード 23
三脚穴 13
自動再生 .71
シャッターボタン 13
十字ボタン 13
充電式電池 18
情報表示 .94
ショートカットメニュー 28, 31
ズームレバー 13
ストラップ 16
ストラップ取付部 13
スポット測光 55
スマートメディア 20
晴天 57
設定クリア 92
セピア作成 81
セルフタイマー 51

セルフタイマーランプ 13, 51
セルフポートレート 66
全押し 36
全コマ消去 76
測光 55

た行

ダブルクリック再生 68
単写 31
デジタルズーム 44
テレビ再生 72
電球 57
電池 17
電池カバー 13
電池残量 15
トップメニュー 28
ドライブ 31
曇天 57

な行

日時設定 26

は行

発光禁止 50
パノラマ 62
半押し 36
ビープ音 87
ビデオ入力端子 13
ファイル番号 14
ファインダ 13, 36
ファンクション撮影 31
フォーカス 40
フォーカスロック 40
フォーマット 25, 88
フラッシュ 13, 49
プリント予約 99
プロテクト 78
ホワイトバランス 57

ま行

マクロ 46
緑ランプ .13
ムービー .41
ムービー再生 73
メモリゲージ 15
モードメニュー 28, 33
モニタ調整 95
モノクロ作成 80

や行

夜景 50
夜景赤目 .50

ら行

ライトプロテクトシール 20
リサイズ .82
リチウム電池 18
レックビュー 90
連写 52
レンズ 13
レンズバリア 13
露出補正 .53

OLYMPUS

オリンパス光学工業株式会社

〒 163-8610　東京都新宿区西新宿 1 の 22 の 2　新宿サンエービル

●ホームページによる情報提供について

製品仕様、パソコンとの接続、OS 対応の状況、Q&A などの各種情報を当社のホームページでご提供しております。
オリンパスホームページ（http://www.olympus.co.jp/）から「サポート」→「デジタルカメラ／プリンタ関連」へ進み、ご利用ください。

●電話等でのご相談窓口

フリーダイヤル

0120-084215

携帯電話・PHS からは 0426-42-7499

FAX 0426-42-7486

調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

営業時間　9：30 ～ 17：00（土・日曜、祝日および弊社休業日を除く）

国内サービスステーション（修理受付窓口）

東　京	〒 101-0052	千代田区神田小川町 1 の 3 の 1　小川町三井ビル (オリンパスプラザ内)	Tel.03(3292)1931
札　幌	〒 060-0034	札幌市中央区北 4 条東 1 の 2 の 3　札幌フコク生命ビル	Tel.011(231)2320
仙　台	〒 981-3133	仙台市泉区泉中央 1 の 13 の 4　泉エクセルビル	Tel.022(218)8421
名古屋	〒 460-0003	名古屋市中区錦 2 の 19 の 25　日本生命広小路ビル	Tel.052(201)9571
大　阪	〒 542-0081	大阪市中央区南船場 2 の 12 の 26　オリンパス大阪センター	Tel.06(6252)6991
広　島	〒 730-0013	広島市中区八丁堀 16 の 11　日本生命広島第 2 ビル	Tel.082(228)3821
福　岡	〒 810-0004	福岡市中央区渡辺通 3 の 6 の 11　福岡フコク生命ビル	Tel.092(761)4466

※ 土・日曜、祝日および年末年始は原則として休業させていただきます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。

VT350903